

奈良先端科学技術大学院大学基金 設立趣意書

奈良先端科学技術大学院大学は、「学部を置かない国立の大学院大学として、最先端の研究を推進するとともに、その成果に基づく高度な教育により人材を養成し、もって科学技術の進歩と社会の発展に寄与すること」を目的とし、また「先端科学技術分野に係わる高度な研究の推進」「国際社会で指導的な役割を果たす研究者の養成」「社会・経済を支える高度な専門性を持った人材の養成」「社会の発展や文化の創造に向けた学外との密接な連携・協力の推進」の4つの理念を掲げて平成3年10月1日設置されました。（この日を創立記念日と定めております）

創立当初は情報科学研究科と附属図書館からスタートし、現在ではバイオサイエンス研究科、物質創成科学研究科を加えた3つの研究科と多様なセンターを擁し、「先端」の名のとおり、まさに日本のフロントランナーとして目的・理念の実現に向け日々教育研究活動を行い、このたび、平成23年10月に20年の佳節を迎えることとなりました。

この20年の活動の成果として、教育面で例を挙げれば、平成19年度に文部科学省の「大学院教育改革支援プログラム」や「先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム」に採択され、平成21年度には「組織的な大学院教育改革推進プログラム」に本学の取組みが採択されるなど、全学的に高度な教育を実践・展開していることが証明されました。

また、研究面においては、平成14年度に日本学術振興会の「21世紀COEプログラム」に採択され、平成19年度の「グローバルCOEプログラム」にも引き続き採択されております。

これらを始めとした教育・研究に係る競争的資金の獲得においては、いまや大学トップレベルにあります。研究レベルを測る指標として用いられる論文引用度指数においても、国内の大学のトップクラスにランキングされており、その優れた研究力を背景に企業などからの受託研究や企業あるいは他大学との共同研究も活発に行われております。

また、優れた研究を単なる研究として埋もれさせるのではなく、社会に還元するため研究成果の事業化や特許取得など産官学連携なども活発で、「大学知的財産本部整備事業（文部科学省）」の事業評価や「大学等産官学連携自立化促進プログラム（文部科学省）」の中間評価において、高い評価を受けました。これら活発な活動の結果、教員1人当たりの特許収入や本学発のベンチャー数においては国内のトップクラスを誇っており、全学一体となって「最先端」を走り続ける努力を続けております。

さらにこれらの教育研究活動が評価される形で、平成21年度に文部科学省が実施した第一期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価でも、本学の教育水準、研究水準ともに86国立大学法人で全国1位を得ることができました。

さて、大学の創立から20年、21世紀もはや10年が過ぎました。この間、日本の社会経済情勢は目まぐるしく変化しており、国立大学を取り巻く環境も大きく変わりつつありま

す。とりわけ平成16年4月の法人化以降、各国立大学には個性や特色はもちろん、グローバル化の中での国際競争力あるいは地域貢献・社会貢献を求める声も大きくなりつつあります。その中でいっそう優れた研究を重ね、次世代を担う人材を育成し、社会に貢献しつつ、今後も「最先端」を走り続けるためには、安定的な財政基盤の構築が不可欠です。そのため、この20周年の佳節を契機に「奈良先端科学技術大学院大学基金（略称：奈良先端大基金）」を創設することといたしました。この基金はやっと成人を迎えた若い本学が、新たな20年あるいは50年、100年と長期展望に立って、本学独自の学生支援や教育研究活動の支援拡充などを目指して創設するものです。

大変厳しい経済情勢ではありますが、本学関係者はもとより、今後の本学に期待を寄せていただく企業、団体及び個人のみなさま方のご理解をいただき、誠に恐縮ではありますが、基金設立の趣旨にご賛同を賜り、本学の発展のため、何卒格別のご協力と継続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年10月

奈良先端科学技術大学院大学 学長 磯貝 彰